

Vol.91

Vol.91 (2022年 夏号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Best Practice and Competence / PM 事例・知識 ... 3

Stakeholders / 法人スポンサー紹介 15

Activities / 支部活動 19

PM Calendar / PM カレンダー 24

Fact Database / データベース 25

Editor's Note / 編集後記 29

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

◆PMI日本フォーラム2022のご案内	3
◆委員会・部会活動内容紹介	8
1. アジャイル研究会	
	代表 和良品 文之丞
2. IT上流工程研究会	
	代表 松井 淳
◆PM実践研究会 発足15周年記念オンラインワールドカフェ 報告	13
	PMI日本支部 関西ブランチ PMI実践研究会 松下 貴司

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

・トッパン・フォームズ株式会社	15
・ペルノックス株式会社	17

Activities / 支部活動

◆PMI本部による「Chapter Satisfaction Survey 2021」の概要紹介	19
--	----

PM Calendar / PM カレンダー

- ・PMI日本支部関連セミナー等

Fact Database / データベース

Editor's Note / 編集後記

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。

「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Office の商標又は登録商標です。

Best Practice and Competence/ PM 事例・知識

一般社団法人PMI日本支部 主催 PMI日本フォーラム2022のご案内



今年も7月9日-31日にわたり「PMI日本フォーラム2022」を開催する運びとなりました。これもひとえに会員各位、法人スポンサー、アカデミックスポンサーならびにフォーラム・スポンサーの皆さま、日ごろPMI日本支部の活動にご賛同いただいている関係諸機関の皆さまのご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

コロナ禍に加えてウクライナ紛争が発生し、世界情勢は不確実性が一段と高まっています。コロナ禍からの回復の過程で発生したサプライチェーン問題に加えて、エネルギー確保に向けた取り組みが喫緊の課題となりました。向こう数年間にわたって様々なプロジェクトを遂行せざるを得ない状況になっています。

元々デジタルトランスフォーメーションの進展、新興国でのインフラ需要の増大、環境対策とSDGsなど、世界はプロジェクトで溢れていましたが、あらゆる国家、組織、企業は更に機敏な行動を求められています。このような環境下でプロジェクトマネジメントの専門家が果たすべき社会的責務は重みを増しています。

様々な社会問題、事業上の課題に対応するため、プロジェクトマネジメントの専門家が能力を発揮して困難な状況を打ち破っていく必要があります。

技術の発展によって従来になかった解決策を実現することも可能になっています。自らの社会的責任に気概を感じ、技に磨

きをかけ、自身の成長に向けて積極的に挑戦していくべきだと思います。

今年もPMI日本フォーラムは、プロジェクト・マネジャーの皆様が専門性を高め、成長する絶好の機会を提供いたします。

今年のテーマは「共創社会をリードするプロジェクトマネジメント ~ Make Ideas a Reality ~」です。

昨今のプロジェクトは、利害関係者が多く、多様な専門家の協力が必要になっています。

異なる立場の人達が協力することにより、新たな価値を生み出すことも可能になります。

上述のように我々が取り組まなければならない課題は山積しています。

しかも問題は複雑で、単に決められたものを作るだけでは済まなくなっています。

本質的に問題を解決するためには、機敏に行動し、実り多い成果を獲得するまで柔軟に粘り強く取り組む必要があります。

プロジェクト・マネジャーには、深い教養と広い視野も求められ、多様な考え方を持つ多くの人々を動機付け、導くことが期待されています。

『PMBOK®ガイド』第7版を始め、最近PMIから提供され

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■PMI日本フォーラム2022のご案内

る標準類や情報は、プロジェクト・マネジャーの責務の高度化を強く意識した内容になっています。

PMI日本フォーラムにおいても、プロジェクト・マネジャーに期待される責務の高度化に合わせて、多方面にわたる講演をご用意いたしました。

講演者とスポンサーの皆様にご協力頂き、多数のボランティアの支援を得て盛大にフォーラムを開催できることを理事及び事務局一同楽しみにしております。

今年もオンライン開催になりますが、オンラインならではの利便性を利用して、多数の皆様にご参加頂きますようお願い申し上げます。

PMI日本フォーラム2022

共創社会をリードするプロジェクトマネジメント ～ Make Ideas a Reality ～

開催期間	2022年7月9日(土)～31日(日)	
配 信 日	基調・招待講演のリアルタイム配信	7月 9日(土)、10日(日)
	基調・招待講演のオンデマンド配信	7月 9日(土)～31日(日)
	研究報告講演のオンデマンド配信	7月 9日(土)～31日(日)
	アカデミック講演のリアルタイム配信	7月10日(日)
	アカデミック講演のオンデマンド配信	7月 9日(土)～31日(日)
参 加 費 (税込み)	一般	30,000円
	法人スポンサー企業社員	26,000円
	PMI日本支部会員	22,000円
	部会アクティブメンバー	15,000円

- すべての講演を視聴できます。
- リアルタイム配信の講演を見逃しても、7月31日までオンデマンド配信で視聴出来ます。
- 法人スポンサーとしてお申し込んだ際、1社あたりの申込者の人数制限はありません。
- 部会アクティブメンバーとは、日本支部主催の部会やスタディーグループで熱心に活動いただいている実績があり、事務局で把握している方です。

まだ、日本支部会員でない方は、是非この機会に日本支部会員にご加入の上、参加ください。

申込みに関するお問合せ先：forum2022admin@pmi-japan.net

フォーラム受講申し込みはPMI日本フォーラム2022 公式サイトから

<https://pmi-japan.eventos.tokyo/web/portal/426/event/4508/>

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■PMI 日本フォーラム2022のご案内

■ プログラム構成

リアルタイム配信 *配信後はオンデマンドでも聴講できます						敬称略
日時	講演区分	講演時刻	講演番号	講演タイトル	講演者	所属組織
7月9日	開催挨拶	9:50~10:00	(M-1)	開催挨拶 (M-1 講演の前にご挨拶します)	端山 毅	PMI 日本支部 会長
	基調	10:00~11:00	M-1	(英語講演) プロジェクトマネジメントの未来と進化するプロジェクトエコノミー	Pablo Lledó	Project Management Institute Audit Committee Chair, Board of Directors
	招待	11:15~12:15	M-2	エネルギー問題をどう捉え、どう対処すべきか ～共創社会構築へ向けたプロジェクトマネジメントの可能性～	古舘 恒介	JX 石油開発 (株) 技術管理部 部長
		13:15~14:15	M-3	アフリカでの医療改革 ～日本発祥の置き薬における可能性～	町井 恵理	認定 NPO 法人 AfriMedico 代表理事
		14:30~15:30	M-4	SDGs・社会貢献におけるインド AI 画像診断プロジェクトマネジメント	及川 晃樹	(株) NTT データ 技術開発本部 シニアスペシャリスト
		15:45~16:45	M-5	アフリカでのものづくりや農林産物による SDGs への貢献 ～エンパワメントをキーコンセプトとして～	森重 裕子	関西学院大学 人間福祉学部 社会起業学科 助教
17:00~18:00		M-6	(英語講演) How to make your PMO indispensable to the top management and the organization	Americo Pinto	PMO Global Alliance Founder & Chair	
7月10日	招待	10:00~11:00	M-7	(英語講演) Strategy Execution and Benefits Realization Methods	Morten Sorensen	the System IT PMO at the US Federal Reserve, Vice President
		11:15~12:15	M-8	プロジェクトベースドラーニングとは何か ～米国・国内事例より～	藤原 さと	(一社) こたえのない学校 代表理事
		13:15~14:15	M-9	医療IT プロジェクトと医療分野における Real World Data の将来性	白鳥 義宗	名古屋大学医学部附属病院 メディカルIT センター 長・病院教授
		14:30~15:30	M-10	地方移住 10 年の CG デジタルアーティストとしての環境問題への挑戦	多田 朱利	(株) レイスリー 代表取締役、有限会社 ATA 企画専務 取締役
		15:45~16:45	M-11	プロジェクトマネジメントは共創社会をリードできるか？	佐々木 順子	公立大学法人長岡造形大学 理事長
		17:00~18:00	M-12	プロジェクトマネジメント手法を活用した大学改革	村上 雅人	芝浦工業大学 学事特別顧問
	アカデミック	10:00~11:00	A-1	大学教育とリカレント教育のデジタルトランスフォーメーションー国際産学連携ー	井上 雅裕	慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 特任教授
		11:15~12:15	A-2	ゲームチェンジャーへの道 ～実践 RADAF モデル～	神庭 弘年	神庭 PM 研究所 所長
		13:15~14:15	A-3	「神戸女子大学× SDGs」PBL プロジェクト紹介とパネルディスカッション	学生による発表/ 貝増 匡俊	神戸女子大学家政学部家政学科の貝増ゼミ/神戸女子大学家政学部家政学科 准教授
		14:30~15:30	A-4	N/S 高等学校の PBL の取り組み	園 利一郎	角川ドワンゴ学園 経験学習部 部長
15:45~16:45		A-5	地域と作る学び ～東京理科大学におけるコ・デザインの取り組み～	森本 千佳子	東京理科大学 経営学部 国際デザイン経営学科 准教授	

オンデマンド配信 特別招待講演					敬称略
講演区分	講演番号		講演タイトル	講演者	所属組織
特別招待	T-1		日本発の培養肉業界におけるルール形成戦略	吉富愛望アビゲイル	多摩大学ルール形成戦略研究所 細胞農業研究会事務局 広報委員長、欧州系投資銀行 M&A アドバイザリーのアナリスト

オンデマンド配信 研究報告(部会・法人スポンサー SG、フォーラムスポンサー)、アカデミック					敬称略
講演区分	講演番号	PMI 日本支部での 所属部会	講演タイトル	講演者	所属組織
研究報告 (部会)	G-1	IRC 研究会	(英語講演) Real problems to be solved in international projects to achieve SDGs goals	部会の都合により 講演中止	
	G-2	IPPM 研究会	新たに編集された EVM 標準が強く伝えたいことは、なにか？ ー PMI 新標準「The Standard for Earned Value Management」 の読み解き方ー	泉澤 聖一	(有) グローバル・テクノロジーズ 代表取締役
	G-3	アジャイル研究会	共創を加速するアーキテクチャー 2022	中村 正伸 井芹 薫 齊藤 毅	香川大学大学院 地域マネジメント研究科 教授 ボッシュ (株) 技術戦略部 マネージャー 中京大学 経営学部 准教授
	G-4		2022 年 アジャイル プロジェクト マネジメント 意識調査	成田 和弘	
	G-5	AI@Work	AI での“好循環”を創る ～魔法の杖から価値創出の道具へ	武上 弥尋 渡邊 恒文	日本アイ・ビー・エム (株) Certified Executive Project Manager
	G-6		AI のナレッジを身に付ける最初の一步 ～得たものとプロジェクトマネジメントへの活用～	掛札 雄也 根元 侯作 有馬 裕輔	JR 東日本メカトロニクス (株) チーフ 日本アイ・ビー・エム (株) プロジェクトマネージャー (株) ギークプラス プロジェクトマネージャー

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■PMI日本フォーラム2022のご案内

オンデマンド配信 研究報告(部会・法人スポンサー SG、フォーラムスポンサー)、アカデミック					敬称略
講演区分	講演番号	PMI日本支部での所属部会	講演タイトル	講演者	所属組織
研究報告 (部会)	G-7	AI@Work	AI導入プロジェクトをどう立ち上げるか？ ～ 価値の実現と品質管理のポイント～	小林 功	enFaith 合同会社 代表社員
				佐藤 朋信	(株) 日立ICTビジネスサービス
	G-8		DX時代におけるAI社会実装 ～ AI@Work Conference ベスト外部講演～	浦川 伸一	損害保険ジャパン株式会社 取締役専務執行役員、 SOMPO システムズ株式会社 取締役会長
				武上 弥尋	日本アイ・ピー・エム(株) Certified Executive Project Manager
				渡邊 恒文	
	G-9	SDGs スタートアップ 研究分科会	SDGs 実現のための『SDGs スタートアップ方法論』の普及促進 ～ SDGs 達成を目指して①～	稲葉 涼太	(株) Flexas Z ゼネラルマネージャー
	G-10		SDGs スタートアップ方法論におけるSDGs事業評価の考え方 ～ SDGs 達成を目指して②～	三木 章義	ビズフォリオ合同会社 代表社員
				塙 隆善	日本アイ・ピー・エム(株) ラーニング・コンサルタント
	G-11		企業版ふるさと納税制度を活用した地域課題解決プラットフォームの構築 ～ SDGs 達成を目指して③～	竹田 憲一	(一社) A-GOAL 理事
				小坪 拓也	(株) カルティブ サービス事業部長
	G-12	関西ブランチ IT上流工程研究会	混迷したDXの時代にPMBOK®Guide 7thは救世主になりうるか？	松井 淳	(株) アイ・ティ・イノベーション 部長
	G-13	関西ブランチ 医療PM研究会	ペルソナ製薬企業における創業R&Dマネジメント仮説メタモデルの適用検証 ～なりたてプログラム・マネジャーの奮闘記 episode 1.5～	堀 万里子	(株) アイコン・ジャパン シニア・クリニカル・トライアル・マネージャー
				小田 裕美	ヤンセンファーマ(株) シニアクリニカルリーダー
	G-14	関西ブランチ 定量的PM事例研究会	心理的安全性と一体感の醸成を重視した新たな組織運営	坂入 美紀子	アレクシオンファーマ合同会社 シニアプロジェクトマネージャー
				杉原 秀保	ニッセイ情報テクノロジー(株) 主席コンサルタント
	G-15	関西ブランチ PM実践研究会	DX時代に求められるPMの“自己変革のすすめ”を加速させる新手法の提案！！ ―タレント・トライアングル：リーダーシップのEI（心の知能指数）を向上させる具体的な鍛錬の方法論“ジョギング禅”の実践！！―	勝連 城二	PMイノベーションオフィス 5 1 代表
	G-16	関西ブランチ PM創生研究会	イノベティブな組織は「人材モデル」あり。 ～「PM創生研@Empathy型部会」が語る「起承転結人材モデル」の本質とは～	伊達 渡	オムロンヘルスケア(株)
	G-17	ステークホルダー 研究会	ステークホルダー・エンゲージメントの重要性とその獲得 ～ステークホルダーアンケート結果から～	鈴木 道代	(株) プロジェクトマネジメントオフィス 企画部長
	G-18		ステークホルダー・エンゲージメントにおける心理学的アプローチ	河南 美章	(株) ミナミ 専務取締役
	G-19	組織的プロジェクトマネ ジメント研究会	組織戦略実践のために経営理論（経済学、社会学、心理学）を 総動員する ～行動心理学編～	田島 彰二	戦略PMオフィス 代表
	G-20		トランスフォーメーションが組織に与えるインパクトとOPMの 実践	河々谷 健一	ベライゾンジャパン合同会社 プロジェクトマネージャー
				西村 理恵	シティグループ証券(株) バイスプレジデント、 シニアPM/BA
	G-21	ソーシャルPM研究会	誰一人取り残されない、人に優しいデジタルコミュニティ実現 に向けて ～デジタルデバッド対策の事例調査報告～	野尻 一紀	キンドリルジャパン・テクノロジーサービス アドバイ ザリー・プロジェクト・マネージャー
				渡辺 恵士朗	札幌のITコンサルティング会社 パブリックセクター マネージャー
	G-22		ソーシャルPM グローバルコミュニティ はじめの一歩 ～ソーシャルPM手法の世界への普及に向けて～	井関 泰文	(株) オリエンタルコンサルタンツグローバル 嘱託
				大久保 剛	個人事業主
				手嶋 優	Volley Inc. データ・オペレーションリード
				タンシ ヒルダ	アマゾン ウェブ サービス Data Center Logistics
	G-23		強くあたたかいコミュニティ実現に向けての取り組み ～共創社会に貢献するコミュニティマネジメント事例～	石塚 幸夫	(株) ブロードバンドセキュリティ マネージングコンサル タント
				久保 佳子	アルプスシステムインテグレーション(株) (ALSI) 品質保証部
				鬼塚 祐代	国立研究開発法人 プロジェクト・マネージャー
	G-24		社会を変える、国境を超えた新規事業創造コミュニティ ～ デジタル・クリエイティブスタジオの挑戦～	須賀 祐介	(株) Sun Asterisk プロダクトマネージャー
	G-25	地域サービス委員会	地域のデジタル化を成功させるためには ～自治体の事業と人材の育成～	浦田 有佳里	国立研究開発法人 情報通信研究機構サイバー セキュリティ研究所 ナショナルサイバートレーニング センター プロジェクトマネージャー
	G-26	DAコミュニティ	働き方を進化させるディシプリンド・アジャイルの魅力	藤井 智弘	あんづラボ 代表
				中谷 公巳	アクシスインターナショナル(株) 代表取締役
				佐藤 美一	SBI FinTech Solutions(株) 次長

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■PMI日本フォーラム2022のご案内

オンデマンド配信 研究報告(部会・法人スポンサー SG、フォーラムスポンサー)、アカデミック					敬称略
講演区分	講演番号	PMI日本支部での所属部会	講演タイトル	講演者	所属組織
研究報告 (部会)	G-27	ポートフォリオ／ プログラム研究会	中堅 Sler ポートフォリオマネジメントどうなった？ ～3年間の色々あったこと、そしてこれから～	上林 太洋	(株)エービーコミュニケーションズ 取締役
	G-28		あれ、この仕事ってプログラム？	金子 美紀	日系製薬会社
	G-29		中期経営計画の目標とプロジェクトの成果との整合について ～ポートフォリオマネジメントの観点から考察～	近藤 浩	日系製造業
	G-30	PMO 研究会	海外事例に見る PMO の将来像 ～PMBOK®ガイド第7版との関係に着目～	尾崎 能久	富士フイルム医療ソリューションズ(株) 取締役 執行役員
	G-31	PM タレントコンピテン シー研究会	プロジェクトを俯瞰する視点 ～DX時代が求めるコンピテン シー～	西原 真仁	日本アイ・ビー・エム(株) シニアプロジェクト・マネ ジャー
	G-32	ビジネスアナリシス 研究会	"The PMI Guide to Business Analysis"の概略とステークホル ダーエンゲージメントについて	神庭 弘年	デロイトトーマツリスクサービス(株) シニアコンサル タント
	G-33		プロジェクトにおける価値実現のためのソリューション評価に 寄与するビジネスアナリシスの考え方	鈴木 伸頭	(株)モンスターラボ シニアマネージャー
	G-34	標準推進委員会	進化するプロジェクトマネジメント ～PMBOK®ガイド第7版が示すもの～	川野 琢也	三菱電機(株) 主任講師
	G-35	プロジェクトマネジメン ト研究会	「スチュワードシップ」ー「PMBOK®ガイド第7版+プロジェク トマネジメント標準」12の原則から	金子 啓一郎	PCIソリューションズ(株) 人材開発部 教育課長
	G-36		PMBOK®ガイド翻訳の変遷	小川 秀子	PMアソシエイツ(株) 代表取締役
研究報告 (法人ス ポンサー SG)	G-37	リスク・マネジメント 研究会	PMBOK®ガイド第7版と新リスクマネジメント実務標準書の変 化から リスクマネジメントを考える	鈴木 安而	(株)セゾン情報システムズ
	G-38	法人スポンサー・ 人材育成 SG	プロジェクト・マネジャーに必要な「人間力」	谷口 和行	ニッセイ情報テクノロジー(株) 上席スペシャリスト
研究報告 (スポン サー)	G-39	ケースメソッド SG	ケースメソッドを用いたプロジェクト・マネジャー育成法	萩原 照緒	(株)日立ソリューションズ 主任
	S-1	フォーラム・スポンサー	どこから変革を始めるか？ ディシプリンド・アジャイルの旅の魅力	牛山 主計	日本ビジネスシステムズ(株) 人事部 担当部長 / HRIS マネージャー
アカデ ミック	S-2	フォーラム・スポンサー	私の考える PMO の在り方	中谷 公巳	アクシスインターナショナル(株) 代表取締役
	A-6		PMI日本支部における学生向け活動のご紹介	林 慎一郎	(株)アイ・ティ・イノベーション アシスタントコンサル タント
	A-7		PMI日本支部における学生向け活動のご紹介	斉藤 学	スカイライトコンサルティング(株) シニアマネジャー
			北近畿地域における産学公民金連携プラットフォーム	内海 康雄	舞鶴工業高等専門学校 校長

委員会・部会活動内容紹介

■ 1. アジャイル研究会

代表 和良品 文之丞

■ アジャイル研究会の生い立ち

アジャイル研究会は、ソフトウェア開発で導入が進むアジャイルをプロジェクト管理の観点から研究していくことを趣旨として、2012年に「アジャイルPM研究会」という名称で活動が始まりました。普遍的な価値観としてのミッションは当初から受け継いでいます。

<ミッション>

- ▶アジャイルプロジェクトマネジメントの発展、展開、情報発信を行うため、活発な活動の場を提供していきます。
- ▶ソフトウェア開発のアジャイルプロジェクトに限らず、より広い範囲のビジネス活動や社会活動における、組織のアジリティ（俊敏性）と組織の生み出すバリューを高めるアジャイルプロジェクトマネジメントを追及します。

当初はアジャイル関連図書の輪講、先進企業の事例研究などを行い、その後、アジャイル意識調査、アジャイル資格の勉強会を実施、そして現在は大学との共同研究や会員間の意見交換・情報交換を行っています。また、プロジェクト管理の観点だけでなく、広くアジャイル全般を研究しようという意図で、名称を「アジャイル研究会」に変更し、現在に至っています。

2021年から「アジャイル研究会もアジャイルで行こう！」を方針として、私たち研究会のお客様を「研究会の会員」と定め、「研究会の会員」に価値を提供できるよう、この指とまれ方式で自発的・自律的に活動することを目指しています。

<方針>

- ▶アジャイル研究会もアジャイルで行う！
- ・プロダクトオーナー制による研究活動の推進と情報発信
- ・メンバーの自己組織化、及びメンバーに対する価値の提供
- ・PMI内外のコミュニティとの積極的な交流

■ 活動報告

2022年度の活動内容を図1に示します。

図1 2022年度 活動内容

- アジャイルプロジェクトマネジメントに関する議論と情報交換
- アジャイルに関する意識調査（アンケート）の実施・分析・提言
- アジャイルに関する大学との共同研究
- アジャイルに関する内外団体との連携及び対外発信

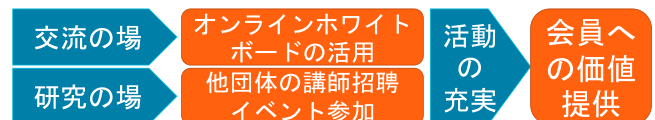


図1に示しますように「活動の場」、「研究の場」を、4本の柱となる活動に提供することによって、活動が充実し、その結果として会員へ価値をもたらせるようにしたいと考えています。具体的な活動の内容として、昨年度の活動実績をご紹介します。

●PMI日本支部のフォーラム2021での発表

フォーラム2021では図2に示しますように、3つの発表を行いました。

図2 PMIJフォーラム2021における発表

- G-3
2021年 アジャイル プロジェクト マネジメント意識調査
- G-4
アジャイル開発における課題の共通性と関連性の考察
- G-5
共創を加速するアーキテクチャー2021

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

「G-3 2021年 アジャイルプロジェクトマネジメント意識調査」では、毎年継続して実施しているアジャイルに関するアンケート調査の結果を、その集計結果、分析及び分析結果を踏まえた提言という構成で報告しました。

「G-4 アジャイル開発における課題の共通性と関連性の考察」では、PMI日本支部及び情報サービス産業協会（JISA）が実施したアジャイルに関するアンケート結果を、日本SPIコンソーシアム（JASPIC）が作成した「アジャイル問診票」を用いて、アジャイル開発の導入・推進に対する課題を考察しました。

「G-5 共創を加速するアーキテクチャー2021」では、香川大学、中京大学の先生方、及び明治大学大学院や企業で研究されている方から、経営学の観点でプロジェクトと経営の「つなぎ」が、「アジャイル」あるいは適応型プロジェクトに適用できるかどうかの考察を発表しました。

●勉強会の開催（関西ブランチPM実践研究会とのコラボ）

「いちばんやさしいアジャイル開発の教本」という書籍を題材に、ウォールスルー（読み進め）しながら気づきや考察を対話して共有する、という進め方で毎月1回、実施しました。アジャイル開発をゼロから学ぶことのできる機会、ウォークスルーしながら多くの知見や気づきが得られる機会として、大変好評の中、当初予定を大幅に延長して終了しました。

今年度は、テーマがアジャイルではありませんのでアジャイル研究会の活動とは別ですが、スロー読書会として活動を継続しています。

図3 勉強会



アジャイル開発はじめてSG

「アジャイル開発はじめてSG」の書籍を題材に、ウォールスルーしながら気づきや考察を対話して共有する、という進め方で毎月1回、実施しました。

**大好評につき
来年度も継続決定！**

■開催頻度・時間 毎月第一月曜日、20:00-21:30（90分）

関西ブランチPM実践研と
コラボしています

アジャイルな活動をやったことが
ない方が参加しています

書籍を題材にして、ウォーク
スルーしながら対話するカタ
ちでゆっくり進めています

●とにかくアジャイルについて語ろう

2021年から新たに始まった活動で、毎月1回、アジャイルに関する意見交換、情報交換を行っています。最大の特徴は、図4に示すとおりオンラインホワイトボードを用いて、リー

ンカフェ方式でディスカッションを行っている、ということです。

図4 とにかくアジャイルについて語ろう



■開催頻度・時間 毎月1回、19:00-21:00（120分）途中参加退出可

リーンカフェ方式は、話したいこと、聞きたいことを1件1葉で付せんに記入して、バックログとして並べます。（図中の黄緑色、ホワイトボードの左側に縦にならんだもの）そこから1つずつ付せんを取り出して中央の議論スペースに貼って5分間（タイムボックスといいます）議論をします。5分経ったら①もっと話したい、②次の付せんで議論したい、③どちらでもよい、の3つから参加者の希望を確認し、一人でも①があればまた5分間議論を継続し、だれも①を希望しなければ、次の付せんを取り出す、ということを繰り返します。

アジャイルをよく知らないという人、現役でアジャイルコーチやコンサルしているプロの方が一緒に議論していますが、アジャイルを知らない人には知識取得や疑問の解消、アジャイルのプロの人にはアジャイル推進における課題認識や気づきが得られるということで双方にメリットがあると言われています。

●月例会

最後に月例会のご紹介です。

図5 月例会

0. 新規会員・見学者の紹介
1. 調整・確認が必要なこと
2. 連絡・報告が必要なこと
3. 意見交換・情報交換

■議事録発行、PDU 2. 0

毎月のように、新規会員、見学の方がいらっしゃいます

フォーラムなどの発表、アンケート内容などを協議します

会員が参加できるイベントやPMIJのイベントが対象です

アジャイルジャパンサテライトを毎月開催しています

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

図5のとおり、毎月第3木曜日19時～21時に会員が集まって確認・調整・連絡・報告を行っています。2時間枠で、PDUの対象です。

昨年度からは、アジャイルジャパンというイベントで発表された講演の中から、会員の希望のあったものを毎月1つずつ取り上げ、動画を視聴した後にディスカッションを行っています。（イベントの主催者に申請してアジャイルジャパンサテライトとして実施しています）

4月に開催した月例会後の出席記録を兼ねた記念撮影の様子を添えます。

以上、アジャイル研究会の概要及び活動内容をご紹介します。

見学、入会はいつでも受け付けております。また月例会の予定はPMI日本支部のイベントカレンダーにも掲載しています。お気軽にご見学・ご入会ください。

図6 月例会後の記念撮影



■ 2. IT 上流工程研究会

代表 松井 淳

■ 私たちの課題認識

近年、企業のデジタル変革に対する意識は高まっています。このデジタル変革の意味を考えると、変革そのものは手段であり、その目的は「ビジネス価値を伴う成功」にあると言えるでしょう。その目的を実現するためには、プロジェクトマネジメントのみならず、様々な専門職人材が協調していくことが大切だと私たちは考えています。特に今日では、「プロジェ

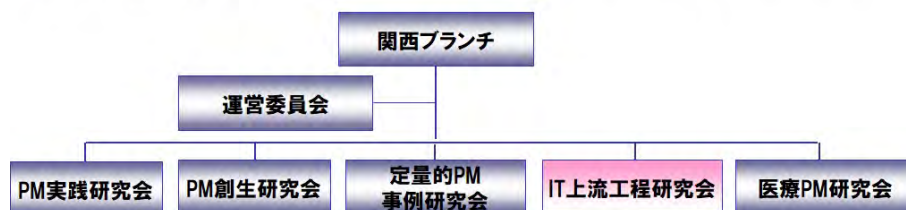
クトマネジメント」「ビジネスアナリシス」「アーキテクチャデザイン」に携わる専門職人材の協調が求められます。これからのプロジェクトマネジャーは、その協調を通じて価値を創造していくような役割を担っていると考えています。

本研究会は、プロジェクトをより良く実践するための議論、研究および実践を通じて、プロジェクトマネジメントに関わる人々がビジネスに貢献できることを目指しています。

IT上流工程研究会のプロフィール

私達は「プロジェクトマネジメント」、「ビジネスアナリシス」、「アーキテクチャ」がそろって、初めて「ビジネス価値を伴う成功」へとつながると考えています。
よって、これからのプロジェクト・マネジャーは様々な専門スキルを持った専門職と協調し、「ビジネス価値を創造するためのプロセス」をマネジメントしていかなければなりません。

本研究会では超上流を含めた様々な領域をまたがったの研究を通じ、真の価値を引き出す手法を研究しています。IT 業界のプロジェクト・マネジャーを中心に、プロジェクトに関わる様々な方の参加を求め、プロジェクトマネジメントをより良く実践するための議論や検討を行っています。



■ 私たちのこれまで

これまでの活動を振り返ると、わたしたちが取り組んできたテーマは、PMBOK®やそれに関連するガイドの進化と重ね合わせることができるでしょう。発足当初は、上流工程の問題を解決するテクニカルな手法に重点をあてていましたが、ここ数年はそれに加えて次世代の人材モデルやプロジェクトマネジメントアプローチにも関心を広げています。特にIT

業界では、新しいアプローチや手法がどんどん生まれてきております。このような先進的なテーマや事例にキャッチアップしつつも、普遍的で時代を越えて変わらない原理やパターンの発見にも取り組んでいます。新しいことに興味がある方、広い視点でプロジェクトを捉え直してみたい方にとっては、多くの学びが得られるでしょう。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■法人さま向け「支部紹介セミナー」の実施について

IT上流工程研究会のこれまで

- 2009年 提案書作成のベストプラクティス
- 2011年 上流工程のお国事情～日本と中国はどう違う？～
- 2012年 ステークホルダーとの協調連鎖がプロジェクトを成功に導く
- 2013年 プロジェクトの成功は利用者視点にある
- 2014年 協調的プロジェクトマネジメントを目指して
- 2015年 提案型IT人材"ビジネスPMO"が切り拓く新たな付加価値
- 2016年 プロジェクトマネジメントで切り拓くビジネス価値
- 2017年 プロジェクトにビジネス価値を浸透させる方法
～PM現場におけるBA的活動の実践例～
- 2018年 ビジネス-ITプロバイダーの橋渡しをする
新たなプログラム/プロジェクト・マネジャーの期待と役割
- 2019年 IT上流これからの10年を考える
～ビジネス貢献のための10のパターン～
- 2021年 ビジネス価値に貢献するPM人材に求められる
実践的ビジネスリレーションシップ・マネジメント・プロセスモデルの構築



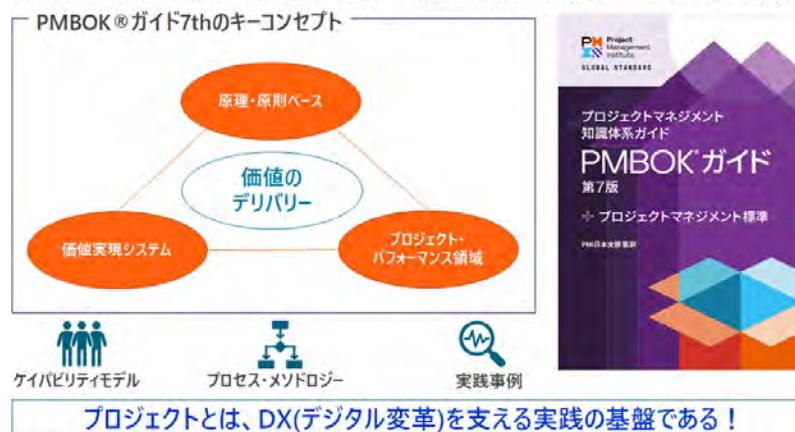
■私たちのこれから

昨年にPMBOK®ガイド第7版は公開されました。皆さんはもう読まれたでしょうか？ 今回の改訂は、真の価値創造に向けプロジェクトマネジメントのあり方そのものを問い直している点に本質があると考えています。本ガイドは、デジタル変革とプロジェクトをシームレスにつなぐ基盤になるも

のとなり、これから国内でも適用事例が増えてくるに違いありません。これからわたしたちはPMBOK®ガイド第7版を「真のDX（digital transformation）の実現」につなげていくために、システム思考（アーキテクチャ）とケイパビリティ（組織・人材）の獲得・実践手法を探索していくことを考えています。

IT上流工程研究会のこれから

PMBOK®ガイド7thを「真のDX(digital transformation)の実現」につなげていくためのシステム思考（アーキテクチャ）とケイパビリティ（組織・人材）の獲得・実践手法を探索しよう



■おわりに

様々なバックボーンを持つ人が集まり、共創と学びの場を作り上げていくことこそプロジェクトの醍醐味です。それは研究部会でも同じだと思います。体系的なアプローチに取り組んでみたい、自分自身の独自のアイディアを膨らませたい。そういった方がいらっしゃれば、お気軽にわたしたち

の活動をのぞいてみてください。実践に向けて一歩踏み出しましょう！

当研究会の活動に興味を持たれた方は、お気軽に下記リンクからアクセスください。

https://www.pmi-japan.org/session/cat379/upper_process.php

PM実践研究会 発足15周年記念オンラインワールドカフェ 報告

PMI日本支部 関西ランチ PM実践研究会 松下 貴司



PMI日本支部
関西ランチPM実践研究会 主催

PM実践研究会 発足15周年記念
オンライン ワールドカフェ

～オンライン時代の
地域コミュニティを考える～

参加費 無料

2022年4月23日(土) 13:30-17:00

1. はじめに

2022年4月23日(土)13時30分より「PM実践研究会発足15周年記念 オンライン ワールドカフェ～オンライン時代の地域コミュニティを考える～」と題して、記念イベントを開催いたしました。

北は北海道、南は九州の福岡まで、16名の参加者と6名の地域サービス委員、合計22名の方が参加されました。

2. 来賓のご挨拶、関西ランチの活動紹介

冒頭、片江監事、浦江副会長からご挨拶をいただきました。

片江監事からは、「PMI4.0 3つの戦略目標と4つの重点領域」について、PMI日本支部の取組を分かりやすくご説明いただきました。

また、PM実践研究会の初期メンバーとしてご活躍された浦田副会長からは、「地域サービス委員会の活動紹介」と「地

域コミュニティ活動や新コミュニティ、新ランチの立上げ」について、地域との連携活動、地域コミュニティ活動をご紹介いただきました。

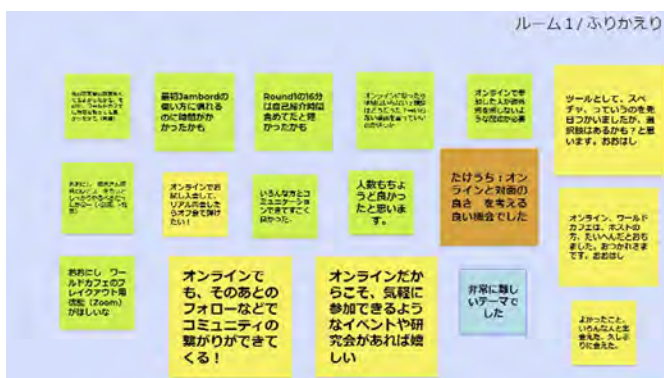
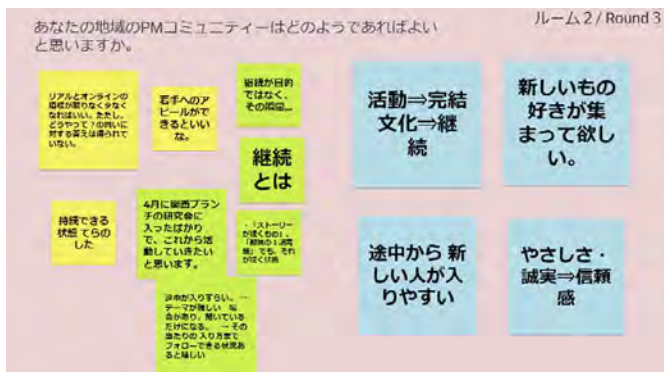
そのあと、関西ランチの5つの研究会（PM実践研究会、医療PM研究会、定量的PM事例研究会、IT上流工程研究会、PM創生研究会）から、それぞれ活動を紹介いただきました。

3. オンライン ワールド・カフェ開催

今回のメインイベントとなる「オンライン ワールド・カフェ」では、各テーブルホストを地域サービス委員の方にご協力いただき、メインテーマにちなんで「お住いの地域でのPMコミュニティではどのような活動がなされていますか」等の3テーマを題材に、6テーブル（各4名）がシャフリングしながら対話を楽しみました。オンラインツールとして、付箋の代わりに「Jamboard」を活用し、意見を交わしました。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■PM実践研究会発足15周年記念オンラインワールドカフェ 報告



各テーブルの振り返りでは、

- 地域コミュニティへの新規入会のハードルを下げるべき
- オンラインでは入会しやすいが、抜けやすいデメリットもある（フォローが大切）
- オンラインによって、時間、場所等の制約がなくなった
- オンラインで全国の人と身近に会話することができるようになった
- 懇親会など直接会える機会が少なくなり、深い関係を構築することが困難

などの意見が出ました。

4. アンケート結果

参加後のアンケート結果では、イベント全体について、「とても満足」43%、「満足」52%で計95%でした。各研究会からの発表については、「大変良かった」、「良かった」が96%でした。

ワールド・カフェには、初参加の方が52%と半数以上の方が未経験でしたが、テーブルホストをお願いした地域サービス委員の方々のファシリテーションにより、活発に意見が交わされていました。

ワールド・カフェの気づきについては、

- いろいろな意見が聞けて良かった
- 地域が違えど、皆さん同じような課題や困りごとを持っていることがわかった
- オンラインでの地域コミュニティのメリットデメリットを参加者からの発言で気づくことができた

など、多くの気づきがあったことをご報告いただきました。

今回のワールド・カフェやふりかえりの雰囲気については、100%の方が「とてもよかった」、「よかった」と回答をいただき、「少人数で会話できたので話しやすかった」等の意見がありました。

記念イベント全体を通して、「活動の熱い思いを感じることができた」、「全国のランチの活動内容を知ることができた」、「ワールド・カフェを通して今後の地域コミュニティのあり方を考えるいい機会となった」等の貴重な意見をいただきました。

進行上の課題も残りましたが、次回の20周年記念に向けて、これらの貴重な意見を踏まえ、関西ランチPM実践研究会のさらに活発な活動に向けて取り組んでいきたいと思っています。



Stakeholders／法人スポンサー紹介

トッパン・フォームズ株式会社

1. トッパン・フォームズとは

「事務革新のパイオニア」として、情報伝達の最適化を推進

私たちトッパン・フォームズは、1965年に日本最大の総合印刷会社である凸版印刷と当時世界最大のビジネスフォーム（BF）製造会社であったカナダのムーア・コーポレーションの合併会社として誕生いたしました。以来、コンピュータリゼーションの進展とともに、業界のリーディングカンパニーとして常に新たな製品やソリューションを生み出し、市場へ送り出してまいりました。

弊社は経営信条「三益一如」において、自らを「事務革新のパイオニア」として社会に貢献していく存在と定義しております。創業の原点ともいべきこの信条のもと、「情報の器」であるBFを基盤にデータ・プリント・サービス（DPS）、ビジネスプロセスアウトソーシング（BPO）へと事業を展開。さらにデジタル領域へと事業の裾野を広げ、デジタルソリューション、RFID、カード、電子決済サービスなど事業を拡大することで、お客さまがエンドユーザーに情報を分かりやすく届けるための「インフォメーション戦略」を支援してきました。

また海外では、香港・シンガポール・タイを中心に現地に根付いた事業を展開するとともに、新技術・ソリューションのローカライズを推進し、市場の開拓と深耕にも力を注いでまいりました。

「デジタルハイブリッド」だからこそ、提供できる価値

デジタルトランスフォーメーション（DX）の加速や新たな生活様式の定着により、世界的なビジネスモデルの変革が起こっています。このような市場環境において、弊社は今後も「情報」を核とし、さまざまな媒体と最先端のデジタル技術を融合することで、付加価値の高いソリューションを提供する「デジタルハイブリッド企業」としての存在感を高めてまいります。また、デジタル領域のさらなるプレゼンス向上を図るとともに、ニューノーマルにおける社会課題の解決と新たなビジネスの創出にも挑戦し続けます。

これまで培った情報を確実・安全に伝える技術や体制は、お客さまからの信頼の源となる弊社の強みです。その強みを

さらに磨きながら、事業継続の根幹となるコンプライアンスの徹底やサステナビリティに向けた取り組みにも重点を置き、社会に貢献するグッドカンパニーを目指してまいります。

2. 事業領域

● デジタルビジネス事業

手続きの共通化、メッセージや帳票の電子サービスを基軸に企業とエンドユーザーの信頼関係構築を支援する「顧客エンゲージメント」と帳票を起点に業務効率化を支援する「ビジネスプロセス・マネジメント（BPM）」を重点領域として展開。デジタルソリューション、電子マネー決済やコード決済などに対応するキャッシュレス決済プラットフォームを基盤とするペイメントサービス、認識技術を活用したIoT・カードソリューション、基幹システムの運用管理を中核とするITソリューションの提供し、お客さまのDXを支援します。



● インフォメーション・プロセス事業

BFの製造やDPSの受託などにより培った弊社独自のノウハウ、そしてAI、RPAなどの省人化・自動化を主体とするデジタル技術を活用したハイセキュリティなアウトソーシングサービスにより、お客さまの業務革新や生産性向上などに貢献します。

● プロダクトソリューション事業

働き方改革や情報セキュリティ対策、オフィス環境の防災・安全対策など、お客さまが取り組むべき経営課題に対して最適なソリューションを提供します。高付加価値な情報機器や

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■トッパン・フォームズ株式会社

オフィスサプライ品の提供はもちろん、オンラインで印刷物やオフィス用品などの調達業務や購買管理業務を一元管理できるプラットフォームも提供しています。

●グローバル事業

当社の幅広いソリューションをASEANエリア中心に展開。日本から進出するお客さまのみならず、現地企業のパートナーとして、新しいビジネスチャンスと付加価値を創出します。

●新規事業・フロンティア

社会環境の変化に先駆けた新しい事業・サービスの創出を通じて、新たな価値や需要の創造を目指します。ヘルスケア・ライフサイエンス、環境・エネルギーなどの分野を中心に、さまざまな社会環境の変化・進展を見据え、次世代の柱となる社会課題解決型の新事業の創出と早期事業化に取り組んでいます。

3. PMI日本支部の法人スポンサーに加入して

弊社は2021年10月より、PMI日本支部の法人スポンサーに加入いたしました。さまざまなソリューションを組み合わせお客さまの課題解決を行う弊社では、日頃からプロジェクトマネジメントの重要性を強く認識しております。今後、PMI日本支部におけるセミナーやスタディーグループへの参加などを通じて皆さまと情報共有や意見交換をさせていただき、幅広い知見や豊富な経験、先進的な取り組みについて共有してまいりたいと考えております。

ペルノックス株式会社

1. Corporate Profile

私たちペルノックスは1970年の設立以来、機能性化学品と呼ばれる製品をエレクトロニクス市場中心に電子部品、自動車関連部品、産業機器部品など多岐に渡る用途で製造・販売しております。900種類を超える製品は、日本国内のみならず、欧州、中国、東南アジアを中心に1000社を超えるお客様にご使用いただいております。

2003年には荒川化学工業株式会社のグループに加わり、開発体制を強化して、新たな素材、合成技術を駆使した製品開発を進めております。2007年には、神奈川県秦野市に本社社屋、液状製品工場、開発センターを新設、2011年にはクリーン環境を備えた導電材料工場を稼働させ、以降も新製品に対応した生産環境・設備の整備を進めております。

私たちが提供する価値は樹脂フォーミュレーションと呼ばれる技術、ノウハウをベースとして、お客様の様々なニーズにきめ細かく対応することにあります。またSDGs、自動車の電装化、軽量化などの技術トレンド、ニーズの変化をいち早く捉えて、革新的な製品開発にも挑戦しています。



2. Business Description

<絶縁材料事業>

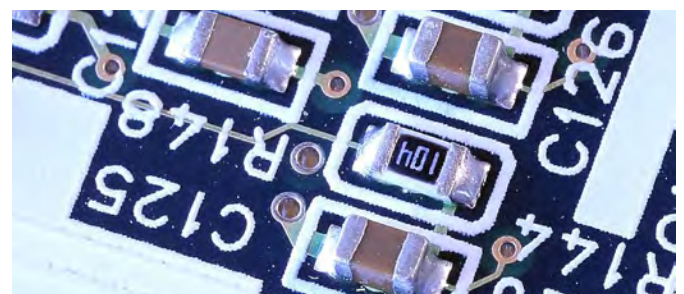
エポキシ樹脂、ウレタン樹脂、シリコン樹脂の性能を最大限引き出すことにより、電子部品、回路を保護する目的（電気絶縁や部品、回路を振動や水分、埃等の進入を防ぐ）でパワーモジュール、リレー・センサー、抵抗、温度ヒューズ、

LED素子等に幅広く使用されています。近年では、電気自動車（EV）の普及や電子部品の高性能化、小型化に伴い、高い耐熱性や低環境負荷型製品の要求が強まっており、材料の最適選択、フォーミュレーション技術の重要性が高まっています。当社ではこのような環境変化に対応できるよう柔軟な開発体制を構築して市場のあらゆるニーズに対応することを強みとしています。



<導電材料事業>

導電機能を持つ製品はタッチパネル、太陽電池、電子部品他の最先端産業において、回路形成、電極形成、導電接着、電磁波遮蔽等の目的で使用され、重要な役割を担っています。電子部品の小型化、軽量化によりニーズが高まる放熱機能や熱線遮蔽機能を持つ製品の開発にも取り組んでいます。



3. Innovation Activities

現在、「変える挑戦」をスローガンとした中期経営計画の中で様々なプロジェクト活動を通じて新たな取り組みに挑戦しています。また各プロジェクトは社長直下に設置されたIV（Innovation）戦略室を中心に部門間に跨って運営を行っています。

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■ベルノックス株式会社

<データ統合システムの導入>

エレクトロニクス市場での材料開発においてはAI/MIをはじめとする様々なデジタル技術の革新によって材料設計の時間短縮と性能向上に大きな変化が訪れています。しかしながら、当社は創業50年を超え、旧態依然とした体制により顧客、設計、製造データや各部門が持つあらゆるナレッジがサイロ化し、データドリブンな経営とは程遠い状態にありました。

このような市場環境の変化と社内体制のギャップに危機感を持ち、環境変化に柔軟に適応し、競争力のある価値を提供していく為に、データ統合システムの導入・運用プロジェクトを発足させました。本プロジェクトでは顧客データ、品質データ、設計データの統合をはじめとして、非構造管理されていたナレッジの見える化を行い、全社で共有できる仕組みを構築することを目的としています。



<WEBマーケティングの導入>

機能性化学品業界ではWEBを活用したマーケティングは未だメジャーではありませんが、コロナ禍による環境変化をひとつのきっかけとして、新たな顧客接点を創出する機会として昨年度よりプロジェクトを発足して活動を進めております。

形骸化していた自社のホームページを刷新。新たなマーケティングツールを導入し、新規リード創出、市場ニーズへのアプローチを推進しております。



4. PMI日本支部に期待すること

2021年10月よりPMI日本支部の法人スポンサーに加入させていただきました。法人スポンサー連絡会やPM部門長セミナー、スタディーグループの参加を通してプロジェクトマネジメントに関する情報共有をさせて頂いております。PMBOK等は非常に有用なフレームワークであると思いますが、少し敷居が高く感じてしまう面もある為、PM初級向けのセミナーやワークショップの充実を期待しております。

Activities／支部活動

PMI本部による 「Chapter Satisfaction Survey 2021」の概要紹介

■全体背景

PMIは毎年全世界の支部に所属する会員を対象に、満足度調査を実施しています。その結果は支部、リージョン毎に集計されて当該支部に通知されます。ただし、他支部の詳細は相互には分かりません。

お気づきでない方も多かったかと思いますが、昨年12月、PMIから調査協力を依頼する英語の電子メールがPMI日本支部会員向けにも発信されました。

■調査結果の概要

支部会員の属性として、大幅に高齢化とベテラン化が進みました。平均年齢が53歳に、プロジェクトマネジメント経験年数が18年となり、2020年度から1年で約2.5年分も高くなりました。プロジェクトマネジメント経験年数でも16年以上のベテランの割合が増加しました。

回答数の状況から、例年ご回答頂いている方が固定化しており、一昨年度とほぼ同じ方々にご回答頂いたのではないかと推察します。2019年度と比較しても高齢化が進んでいます。未来創造セミナーなど若年層への働きかけを強めていますが、更に踏み込んだ施策が必要であることが見て取れます。

支部会員満足度やリーダーシップに対する満足度については、明確なご不満をお持ちの方は少なく概ねご満足頂いている状況ですが、「とても満足」は決して多くないので、改善

の余地ありの状況が続いています。支部会員を継続する可能性は総じて高い状況ですが、例年の会員継続率は85~87%程度であり、「あまり可能性がない」以下が7%であったことから、満足度の高い方に好意的なご回答いただいた可能性を認識しておくべきだと理解しています。

「支部がCOVID-19による変化に適応していると思いますか」という質問に対しては、「非常によく適応している」が28%で、「割とよく適応している」が51%であり、この2つの選択肢を選んだ人の割合が合わせて79%となり、支部のCOVID-19対策は高く評価されていると考えられます。オンラインイベントへの参加回数が顕著に増大し、オンデマンド形式で事後視聴された方も多かったものと思われます。

■今後に向けて

2021年度調査の回答数は728、回答率は16%で、2020年度と比べ2%、回答数で571人減少しました。昨年度は積極的に回答をお願いした結果、回答数は1,291となりましたが、2021年度は自然体に戻したところ、ほぼ一昨年の回答数(748)に戻ってしまいました。今後、より多くの会員からご意見をいただく努力を継続していきます。

今年末にも同様の満足度調査が行われる予定ですので、積極的にご協力いただき率直なご意見をお寄せいただければ幸いです。

Activities / 支部活動

■PMI本部による「Chapter Satisfaction Survey 2021」の概要紹介

■支部満足度調査2021 (Chapter Satisfaction Survey 2021) 結果

■支部データ及び回答者のプロフィールのサマリー

支部会員数、回答者の属性	2018年	2019年	2020年	2021年
支部会員数（12月末）	4,633人	5,078人	4,966人	5,026人
本調査の回答数	645人	748人	1,291人	728人
本調査の回答率	14%	12%	18%	16%
回答者の平均年齢	—	50.7歳	50.4歳	53.0歳
回答者の平均プロジェクトマネジメント経験年数	15.0年	15.9年	15.8年	18.0年

■支部会員のバックグラウンド

プロジェクトマネジメント経験年数	2018年	2019年	2020年	2021年
5年以下	11%	11%	10%	6%
6～10年	29%	27%	28%	23%
11～15年	21%	19%	19%	18%
16～20年	22%	21%	22%	24%
20年超	17%	22%	21%	29%

年齢	2018年	2019年	2020年	2021年
24歳以下	—	0%	0%	0%
25～35歳	—	4%	4%	3%
36～45歳	—	26%	26%	18%
46～55歳	—	39%	40%	40%
56～64歳	—	26%	25%	32%
64歳超	—	5%	5%	7%

■具体的設問

支部会員であることがどれだけ自分のキャリアに重要か	2018年	2019年	2020年	2021年
とても重要	16%	17%	10%	13%
重要	33%	31%	23%	25%
まあまあ重要	34%	33%	45%	40%
ほとんど重要ではない	11%	15%	19%	19%
全く重要ではない	5%	5%	3%	4%

Activities / 支部活動

■PMI本部による「Chapter Satisfaction Survey 2021」の概要紹介

PMI会員費の支払者は？	2018年	2019年	2020年	2021年
自分	77%	77%	77%	78%
自分が一部、自分の会社が一部	3%	3%	2%	2%
自分の会社	20%	21%	21%	20%

支部会員費の支払者は？	2018年	2019年	2020年	2021年
自分	78%	78%	79%	79%
自分が一部、自分の会社が一部	3%	2%	2%	1%
自分の会社	19%	20%	19%	20%

全体的な支部会員満足度	2018年	2019年	2020年	2021年
とても満足	21%	19%	14%	16%
どちらかといえば満足	46%	47%	38%	41%
満足でも不満足でもない	24%	25%	39%	34%
どちらかといえば不満足	7%	7%	7%	7%
とても不満足	2%	1%	2%	2%

支部のリーダーシップに対する満足度	2018年	2019年	2020年	2021年
とても満足	16%	15%	11%	11%
どちらかといえば満足	40%	36%	25%	21%
満足でも不満足でもない	36%	42%	58%	60%
どちらかといえば不満足	7%	5%	3%	4%
とても不満足	2%	2%	2%	3%

支部会員を継続する可能性	2018年	2019年	2020年	2021年
非常に可能性が高い	20%	24%	31%	42%
とても可能性が高い	38%	35%	47%	28%
どちらかといえば可能性がある	35%	34%	15%	23%
あまり可能性がない	5%	5%	5%	6%
全く可能性がない	2%	2%	2%	1%

全体的に見た支部会員としての価値	2018年	2019年	2020年	2021年
非常に高い	10%	8%	6%	8%
とても良い	25%	25%	16%	18%
良い	40%	38%	35%	34%
まあまあ	19%	22%	35%	30%
良くない	7%	7%	9%	10%

Activities / 支部活動

■PMI本部による「Chapter Satisfaction Survey 2021」の概要紹介

日本支部入会を勧める可能性	2018年	2019年	2020年	2021年
10	10%	11%	6%	6%
9	5%	6%	4%	4%
8	16%	22%	14%	20%
7	22%	16%	17%	18%
6	9%	11%	9%	11%
5	20%	21%	30%	24%
4	4%	3%	5%	4%
3	6%	4%	5%	6%
2	5%	4%	4%	3%
1	1%	1%	2%	2%
0	4%	1%	3%	2%

支部がCOVID-19による変化に適応していると思いますか	2018年	2019年	2020年	2021年
非常によく適応している	—	—	—	28%
割とよく適応している	—	—	—	51%
あまりよく適応できていない	—	—	—	3%
全く適応できていない	—	—	—	1%
支部には何も変化がない	—	—	—	17%

■支部会員活動

これまで支部のリーダーとして活動したことがありますか	2018年	2019年	2020年	2021年
はい、現在リーダーとして活動中	10%	10%	6%	7%
はい、過去にリーダーとして活動していました	8%	6%	5%	6%
いいえ	81%	84%	88%	87%

これまで支部のボランティアとして活動したことがありますか	2018年	2019年	2020年	2021年
いいえ	77%	75%	84%	76%
はい	23%	25%	16%	24%

ライブ・イベントに参加した回数	2018年	2019年	2020年	2021年
0	34%	37%	64%	93%
1～3	40%	37%	30%	6%
4～8	15%	15%	4%	0%
8以上	11%	11%	1%	1%

Activities / 支部活動

■PMI本部による「Chapter Satisfaction Survey 2021」の概要紹介

オンライン上のイベントに参加した回数	2018年	2019年	2020年	2021年
0	75%	74%	45%	21%
1～3	17%	21%	39%	44%
4～8	5%	4%	11%	22%
8以上	3%	2%	5%	13%

支部会員活動の活発度	2018年	2019年	2020年	2021年
自分が望むほど活動に従事していない	20%	27%	33%	28%
自分が望むと同程度活動に従事している	49%	41%	46%	47%
自分が望む以上に活動に従事している	17%	18%	5%	5%
上記のどれにも当たらない	13%	8%	11%	0%
そのほか	1%	7%	4%	0%
確かではない	—	—	—	20%

支部会員としての活動をさらに活発に行うために何が必要か	2018年	2019年	2020年	2021年
ボランティア活動についての明確な詳細を提示	7%	6%	10%	9%
自分にとって都合のいいタイミングでのイベント実施	28%	22%	24%	28%
自分の業種に特化したイベント	17%	21%	14%	15%
会員活動の機会についての支部からの情報提供	17%	21%	17%	17%
全般的にもっと多くのイベント	11%	13%	18%	11%
他参加者との交流機会（ネットワーキング）の提供	16%	11%	13%	14%
上記に当てはまらない	4%	3%	1%	2%
そのほか	0%	4%	0%	0%
その他の回答あり	0%	0%	3%	4%

支部に入会した当初の理由	2018年	2019年	2020年	2021年
プロジェクトマネジメント全般についてもっと学ぶため	—	—	28%	27%
さらにPDUを獲得するため	—	—	20%	19%
PMIが提供するメリットを十分に享受するため	—	—	15%	16%
プロジェクトマネジメントに関し経験を得るため	—	—	10%	10%
リーダーシップのスキルを得て実践するため	—	—	8%	8%
近隣で他のプロジェクト・マネジャーと交流するため	—	—	8%	7%
地元のプロジェクト・マネジャーからリソースやツールについて習うため	—	—	5%	5%
自分の業界またはプロジェクトマネジメントに関してメンターを探すため	—	—	2%	3%
地元のコミュニティでボランティア活動に従事するため	—	—	2%	3%
その他の回答あり	—	—	2%	2%
自分の地域で仕事の機会を得るため	—	—	1%	1%

PM Calendar / PMカレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。
新型コロナウイルス拡大防止の観点から、全てのセミナーをリモート化して実施しています。
詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中・準備中】

■ PMI日本支部関連セミナー／ワークショップ

● 支部会員限定 新入会オリエンテーション

- 日時：6月30日(木) 19:00～20:30
- 形式：リモート開催
- 無料 (1PDU)

● 8月度月例セミナー

- 日時：8月20日(土) 10:00～12:00
- 形式：リモート開催
- 2PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● アジャイル基礎

- 日時：9月12日(月) 9:30～18:30
- 形式：リモート開催
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● プログラムマネジメント実践ワークショップ (DX編) ～変革実現の成功の手引き～

- 日時：7月19日(火) 9:30～18:00
- 形式：リモート開催
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● アジャイル実践 ～知識から実践へ～

- 日時：8月8日(月) 9:30～18:30
- 形式：リモート開催
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● 9月度月例セミナー

- 日時：9月16日(金) 19:00～21:00
- 形式：リモート開催
- 2PDU、ITC実践力ポイント7時間分

■ PMI日本支部関連イベント

● PMI 日本フォーラム 2022

- 日時：2022年7月9日(土)～10日(日)
- オンデマンド配信は7月末まで

● PMI Japan Festa 2022

- 日時：2022年11月12日(土)～13日(日)
- オンデマンド配信は11月末まで

【月例セミナー開催について】 2022年度の月例セミナーは、下記の日程で行います。

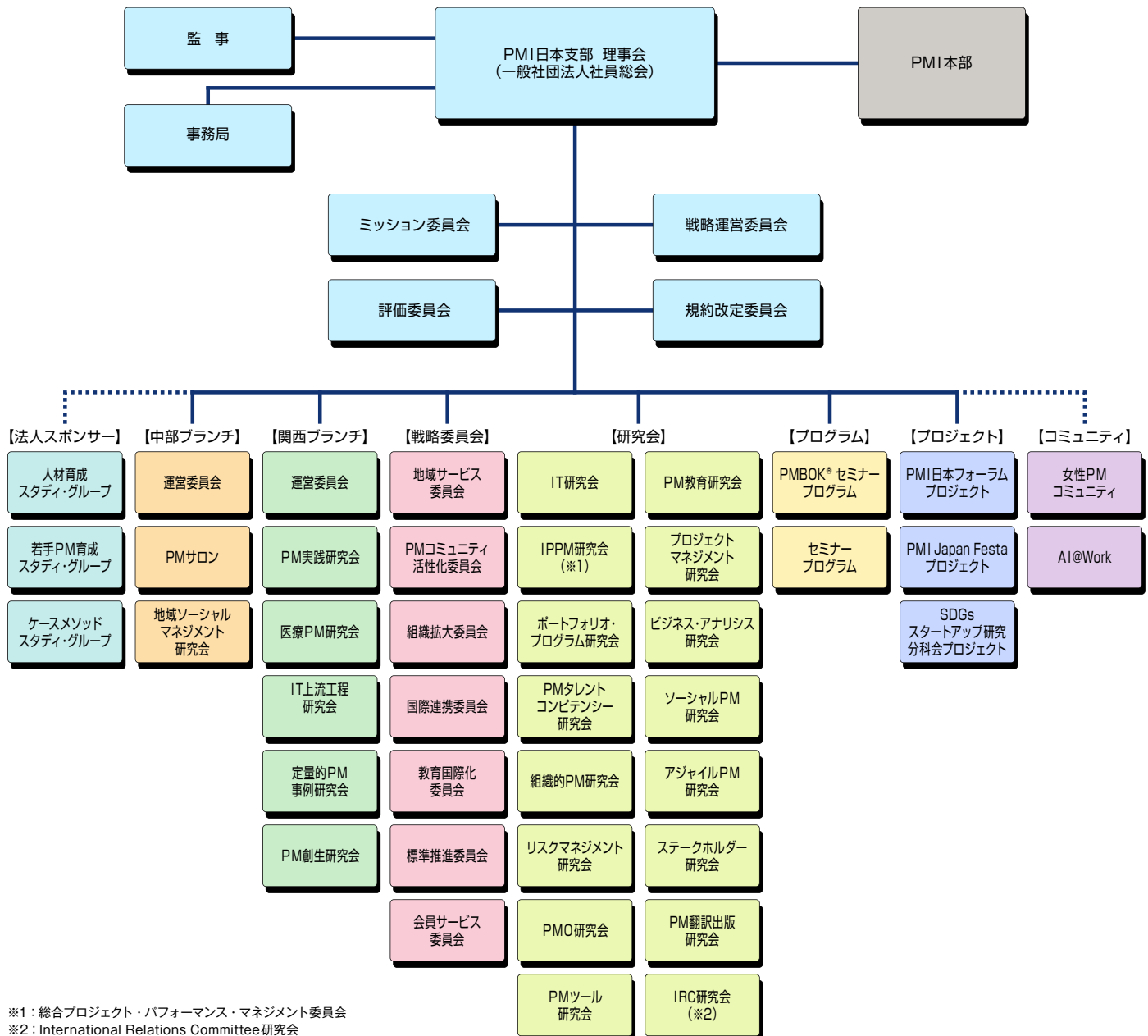
【日程(予定)】	(2022年1月22日(土) 新春特別セミナー)	
	① 2022年2月18日(金)	⑤ 2022年6月17日(金)
	② 2022年3月18日(金)	⑥ 2022年8月20日(土)
	③ 2022年4月16日(土)	⑦ 2022年9月16日(金)
	④ 2022年5月14日(土)	⑧ 2022年12月16日(金)

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2022年3月現在)



Fact Database / データベース

■理事一覧 (2022年6月現在)

会 長	端 山 毅	株式会社NTTデータ
副会長	麻 生 重 樹	日本電気株式会社
副会長	浦田有佳里	国立研究開発法人情報通信研究機構／ナショナルサイバートレーニングセンター
副会長	奥 澤 薫	KOLABO
副会長	斉 藤 学	スカイライト コンサルティング株式会社
副会長	森 田 公 至	キンドリルジャパン株式会社

(以下、五十音順)

理 事	有 坂 寿 洋	株式会社日立アカデミー
理 事	稲 葉 涼 太	株式会社Flexas Z
理 事	井 上 雅 裕	慶應義塾大学／芝浦工業大学／ISAL
理 事	小川原陽子	日本アイ・ビー・エム株式会社
理 事	鬼 束 孝 則	Ridgelinez 株式会社
理 事	金子啓一郎	三菱電機株式会社
理 事	杉 原 秀 保	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
理 事	千 葉 昌 幸	株式会社三菱総合研究所
理 事	中 村 亜 子	株式会社パーソル総合研究所
理 事	永合由美子	東京大学／(特非)日本女性技術者科学者ネットワーク／(特非)女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト
理 事	藤 井 新 吾	モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
理 事	藤 原 慎	株式会社NTTデータユニバーシティ
理 事	松 本 弘 明	株式会社オプティム／株式会社ユラスコア
理 事	水 井 悦 子	エンパワー・コンサルティング株式会社
理 事	保 井 俊 之	広島県公立大学法人／叡啓大学
理 事	山 本 智 子	川崎医療福祉大学
理 事	除 村 健 俊	サイバー大学／芝浦工業大学
理 事	渡 辺 敏 之	日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ)
監 事	片 江 有 利	株式会社システムコストマネジメント
監 事	山 中 良 文	JFEシステムズ株式会社

■最新の会員・資格者情報 (2022年5月31日現在)

会員数 (人)	
PMI 本部	日本支部
683,502	5,476

資格保有者数（人）												
PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	PfMP®	PMI-PBA®	CAPM®	DASM	DASSM	DAC	DAVSC
世界全体	日本在住											
1,260,717	41,572	6	14	16	328	11	16	369	23	26	5	2

■行政スポンサー (2022年3月現在)

- ・三重県 桑名市
- ・滋賀県 大津市

■法人スポンサー 一覧 (109社、50音順、2022年6月現在)

- ・アイアンドエルソフトウェア株式会社
- ・I&Jデジタルイノベーション株式会社
- ・アイシンク株式会社
- ・株式会社アイ・ティ・イノベーション
- ・株式会社ITプレナーズジャパン・アジアパシフィック
- ・株式会社アイ・ティー・ワン
- ・株式会社アイテック
- ・株式会社アイ・ラーニング
- ・アクシスインターナショナル株式会社
- ・アドソル日進株式会社
- ・アベールソリューションズ株式会社
- ・伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- ・株式会社インテジテクノスフィア
- ・株式会社インテック
- ・株式会社エクサ
- ・エス・エー・エス株式会社
- ・SCSK株式会社
- ・SBテクノロジー株式会社
- ・NECソリューションイノベータ株式会社
- ・株式会社NSD
- ・NCS&A株式会社
- ・NDIソリューションズ株式会社
- ・株式会社NTTデータ
- ・株式会社NTTデータ アイ
- ・株式会社NTTデータ関西
- ・株式会社NTTデータ・ニューソン
- ・株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- ・株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- ・MIデジタルサービス株式会社
- ・MS&ADシステムズ株式会社
- ・株式会社エル・ティー・エス
- ・株式会社オーシャン・コンサルティング
- ・株式会社大塚商会
- ・キーウェアソリューションズ株式会社
- ・キヤノン株式会社
- ・キヤノンITソリューションズ株式会社
- ・キンドリルジャパン株式会社
- ・クオリカ株式会社
- ・株式会社クレスコ
- ・KDDI株式会社
- ・株式会社神戸製鋼所
- ・コベルコシステム株式会社
- ・サイフォーマ株式会社
- ・JFEシステムズ株式会社
- ・株式会社JSOL
- ・JBCC株式会社
- ・株式会社シグマクシス
- ・株式会社システムインテグレータ
- ・株式会社システム情報
- ・システムスクエア株式会社
- ・情報技術開発株式会社
- ・住友電工情報システム株式会社
- ・ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
- ・SOMPOシステムズ株式会社
- ・大日本印刷株式会社
- ・TIS株式会社
- ・テルモ株式会社
- ・東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- ・東芝テック株式会社
- ・株式会社東レシステムセンター
- ・トッパン・フォームズ株式会社
- ・株式会社トヨタシステムズ
- ・株式会社TRADECREATE
- ・日揮グローバル株式会社
- ・ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- ・日鉄ソリューションズ株式会社
- ・日本電気株式会社
- ・日本アイ・ビー・エム株式会社
- ・日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社
- ・株式会社日本ウィルテックソリューション
- ・日本自動化開発株式会社
- ・日本情報通信株式会社
- ・日本電子計算株式会社
- ・日本ビジネスシステムズ株式会社
- ・日本ヒューレット・パッカード株式会社
- ・日本プロセス株式会社
- ・日本ユニカ・システムズ株式会社
- ・株式会社ネクストスケープ
- ・株式会社野村総合研究所
- ・株式会社パーソル総合研究所
- ・株式会社パスコ
- ・株式会社パデコ

Fact Database / データベース

- ビジネスエンジニアリング株式会社
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- 株式会社 日立アカデミー
- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社日立社会情報サービス
- 株式会社日立製作所
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日立物流ソフトウェア株式会社
- BIPROGY株式会社
- 株式会社ヒューマンテクノシステム
- 富士電機株式会社
- プラネット株式会社
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- 三菱総研DCS株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- 三菱電機株式会社
- 三菱電機ソフトウェア株式会社
- 明治安田システム・テクノロジー株式会社
- ペルノックス株式会社
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- Wrike Japan株式会社
- 株式会社ラック
- 株式会社リクルート
- 株式会社リコー
- リコージャパン株式会社
- 株式会社ワコム

■ アカデミック・スポンサー 一覧 (51教育機関、50音順、2022年6月現在)

- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 明石工業高等専門学校 建築学科大塚研究室
- 江戸川大学 メディアコミュニケーション学部情報文化学科
- 愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 丸山智子研究室
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 公立大学法人大阪 国際基幹教育機構 高度人材育成推進センター
- 大阪大学大学院 工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 岡山大学 教育研究プログラム戦略本部 戦略的プログラム支援ユニット (URA)
- 香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
- 鹿児島大学 産学・地域共創センター
- 学校法人 角川ドワンゴ学園 経験学習部
- 金沢工業大学
- 川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
- 九州大学大学院 芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 京都光華女子大学
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究センター
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- 慶應義塾大学 理工学部 管理工学科 飯島研究室
- 地方独立行政法人 神戸市民病院機構 神戸市立神戸アイセンター病院 研究センター
- 神戸女子大学 家政学部家政学科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- サイバー大学
- 札幌学院大学
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
- 産業技術大学院大学
- 芝浦工業大学
- 就実大学 経営学部 経営学科
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 第一工科大学 東京上野キャンパス
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 中央大学 国際情報学部
- 中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
- 中京大学 情報センター
- 筑波大学大学院 システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 東京工科大学 コンピュータサイエンス学部 プロジェクトマネジメント研究室
- 東京都市大学 都市生活学部 国際開発プロジェクト研究室
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 広島修道大学 経済科学部
- 公立大学法人 広島市立大学 大学院情報科学研究科
- 福岡工業大学 情報工学部システムマネジメント学科
- 法政大学専門職大学院 イノベーション・マネジメント研究科
- 北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 敷田研究室
- 北海道情報大学
- 北海道大学大学院 情報科学研究科
- 独立行政法人 国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校
- 明治大学 経営学部 鈴木研一研究室
- 山口大学 工学部知能情報工学科
- 山口大学大学院 技術経営研究科
- 国立研究開発法人 理化学研究所 生命機能科学研究センター
- 早稲田大学ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科

Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

■ PMI 日本フォーラム 2022

2022年7月9日から31日まで、「PMI 日本フォーラム 2022」を今年も全面リモートで開催します。12名の方々による基調・招待講演のほか、吉富愛望アビガイル様による特別招待講演、研究報告講演47編（部会、法人スポンサー スタディー・グループ、フォーラム・スポンサー企業様）、アカデミック講演7編など計67講演が展開されます。その概要を紹介しました。

■ 委員会・部会活動内容紹介

2022年5月31日(月)に、PMコミュニティ活性化委員会主催で「部会紹介セミナー」が開催されました。今回はその中から「アジャイル研究会」、「関西ブランチIT上流工程研究会」の活動内容についてご紹介しました。

■ 関西PM実践研究会 発足15周年記念オンラインワールドカフェ

関西PM実践研究会は2007年2月に関西初の研究会として発足し、今年で15周年になります。2010年よりワークショップ（あかね実践工房）を開催してきましたが、通算23回目の記念ワークショップを4月23日に開催しました。その結果をご報告しました。

■ 新規法人スポンサー紹介

2021年8月に法人スポンサーに加入されたトッパン・フォームズ株式会社様、同年10月に加入されたペルノックス株式会社様から自社紹介をいただきました。

■ 2021 Chapter Satisfaction Survey 結果

PMI本部のマーケット・リサーチ・チームが毎年1月に全世界の会員を対象に実施しているアンケート調査結果から、2021年版の日本支部に関わる部分をご紹介しました。

ニュースレター編集担当から読者の皆様へお願い

皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。PMI日本支部事務局宛てにお送りください。

2022年7月9日から31日まで開催する、日本支部の年間最大イベント「PMI 日本フォーラム 2022」。現地開催とのハイブリッド化を慎重に検討した結果、最終的には今年もリモート開催のみに絞って開催することが決まりました。今、講演予定の方々、スポンサー企業様、理事、事務局員が一丸となってラストスパートに差し掛かっています。

一方、今年後半からは現地開催のセミナーも幾つか実施する予定です。

リモート開催イベントの充実を図りつつ、皆さまと、あるいは皆さま同士の直接対話が叶うリアル・イベントの開催に向けても、少しずつ少しずつ進んでいきます。

PMI 日本支部ニュースレター Vol.91 2022年6月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833

E-mail：info@pmi-japan.org

ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)